

発行

財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034 Email:se-jcu@unicef.or.jp
ホームページ <http://www.unicef.or.jp> 募金口座◎郵便振替・00190-5-31000・(財)日本ユニセフ協会

カンボジアの確かな自立の芽生えを見た!

7月27日の下院選挙投票が終わって1カ月。カンボジアの首都プノンペンには混乱も見られず、街をたくさんのバイクが走り、とても活気に満ちていました。「人差し指の爪が黒いのは選挙に行った証拠なんだ」と黒い色をぬられた右手の人差し指をユニセフ・カンボジア事務所のスタッフが見せてくれました。学校の先生が参加してユニセフ活動の現場を視察するスタディツアーは選挙を考慮し、今年は1カ月遅れの8月23日(土)～8月31日(日)に実施されました。カンボジア指定募金へのご協力により、子どもを守るさまざまな事業が行われ、成果があらわれてきている様子をご報告します。



カンボジアの子どもたち

©日本ユニセフ協会

子どもの権利を守る—セッコマープログラム

学校で子どもたちが取り組む募金がどのように使われるのか詳しく知りたい、という学校の希望に応じて、現在、カンボジアのセッコマープログラムを指定して支援を行っています。

「セッコマー」とは、クメール語で「子どもの権利」

という意味。カンボジアの子どもたちの権利を守るために、幅広いプログラムが実施されています。指定募金の対象となっているのは6つの州ですが、今回はそのうちの2つの州の成果をご紹介します。(指定募金はモンゴルのストリートチルドレン事業でも行っています)

プレイベン州のセッコマープログラム

クメール語で「長く森が続いている」という意味のプレイベンですが、森林は切り開かれ、あたり一面に水田が広がっています。比較的早期に解放されたこの地域は、現在、特に女の子の支援に力をいれています。



「健やかな成長を守る」

子どもたちの健康状態を見るために、2歳未満の子どもは年に3回、5歳未満の子どもは年に1回、村で発育観察を行います。

活動を見ました

子どもの名前の登録のあと、体重と身長を測定して記録し、問診と栄養指導が行われます。これからお母さんになる女性には、母乳育児の重要性を教えます。指導するのはユニセフの支援



栄養指導と問診

©日本ユニセフ協会

で教育を受けた地域の委員です。ユニセフから提供されたおそろいの白いブラウスと紺色のスカートの12歳～16歳の女の子たち数人が、人身売買から子どもを守る寸劇を人びとの前で演じていました。特に貧しい家庭から選ばれた女の子たちで、村から奨学金をもらい、村の発育観察の時に補佐をしたり、寸劇を演じることで、子どもを守るための大切な情報を伝えています。こうして身につけた知識は女の子たちも活かすことができます。

「自分たちの力で問題の解決をはかる」

村人が集まって村の問題について話し合い、解決方法を考える「村落行動計画集会」が行われています。ここでも奨学金を受けている女の子たち（12歳～14歳）が寸劇を演じ、話し合ったり、相談することで問題解決することの大切さを伝えています。

活動を見ました

男性、女性、女の子の3グループに分かれ、それぞれがかかえる問題を出し合い、原因とその解決方法について積極的に意見を出し

合い紙に書き出していきました。自分たちの問題は自分たちの力で解決しよう、という意気込みが伝わってきます。

女の子たちのグループで出た問題は「病気になる子どもが多い」こと、原因として「食べ物が少ない」があげられ、この解決方法として「十分な栄養がとれるような食事をする」「保健員を育てる」などの解決案が出ていました。発育観察の現場のように、ここでも女の子が活躍しています。



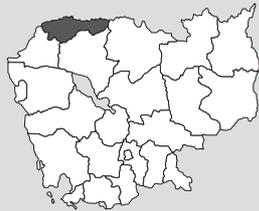
村落行動計画集会での寸劇

©日本ユニセフ協会

オッターミアンチエイ州のセッコマープログラム

オッターミアンチエイ州のアンロンベンはボル・ポトが最後まで残った地です。そのため、未だに多くの地雷や不発弾が残っており、ユニセフの支援も始まったばかりです。

保健担当のユニセフスタッフが「ゼロからのスタートではなく、ゼロ以下からのスタートです」と語っていました。



「安定した収入と生活を実現する—米銀行」

米銀行とは、村人が安心して生活を送るための重要な助け合い活動です。ひと家族（人数に関係なく）について、1年間に米80Kgを出し合い、貸し出すための米を用意します。食事用の米や、作付け用の種もみが足りない時に借りることができ、利息は年10%で、一般の米貸しより少ない利息です。米は米倉に保管され、きちんと貸し出しを記録して管理

するための指導がユニセフの支援で行われています。村長を含め会計係など5名で事務局を組織して米銀行を運営しています。米銀行によって、村人は安定した食事ができるようになり、子どもは健康状態が良くなって、精神的にも安定してきました。村人どおしの連帯感も強まるなどの成果が出ています。



米銀行の米袋 ©日本ユニセフ協会

「地雷から子どもを守る」

多くの地雷が残る地域だけに、子どもたちを中心に村人に対しても地雷教室がひんぱんに開かれています。家の手伝いなどいろいろな事情で学校に通えない子どもには、学校で地雷について学んだ子どもが先生役をして、子どもたちに地雷や不発弾について伝えています。

活動を見ました

14歳の女の子と11歳の男の子が大きな紙に書かれた地雷や不発弾の種類を説明したり、見つけた場合の対処について、子どもたちがわかるまで何度もいいねいに教えたりしていました。

集まっていた子どもたちに聞いたところ、不発弾を見たことのある子どもが2人、教室で教えられた通り、近くにいた親にその存在を伝えたと話してくれました。



地雷教室

©日本ユニセフ協会

「安定した収入と生活を実現する—家庭菜園」

家庭菜園や家畜の飼育などで収入を安定させるプログラムも行っています。向上心のある人、土地のある人が条件となり、専門の指導員によって野菜の育て方、魚の養殖、家畜の飼育の指導を受けることができます。

活動を見ました

訪問したのはお父さん、お母さんと子ども4人の6人家族のお宅。家の前の畑はきれいに手入れされ、野菜や果物がたくさん栽培されています。近くの池で魚を養殖したり、自宅の庭で家畜も育てていました。プログラムに参加して収入が向上し、「上の2人の子どもは学校に通うことができるようになった」とお父さんがうれしそうに話していました。「お母さんが家庭菜園の管理を1人でできるようになれば、自分は町でほかの仕事をして、より多くの収入を得ることができるようになるだろう」とこれからの希望も語ってくれました。



訪問した家族

©日本ユニセフ協会

「セッコマープログラム」は、カンボジアの子どもを守るための総合的な取り組みです。

子どもが心身ともに健やかに成長し、可能性を最大限に発揮するためには、安定した家庭生活とコミュニティの連携、保健、栄養など健康を守るためのサービス、生活の知恵、自立のための活動、地雷から身を守る教育など、子どもを守る取り組みを連携させることで、より具体的な成果をあげることができます。「セッコマープログラム」により、子どもたちの生活が確実に改善されてきていることを視察で確認することができました。カンボジアの子どもを守るために、今後とも「カンボジア指定募金」にご支援をよろしく願いいたします。